

羽仁 もと子（はに・もとこ）

1、プロフィール

わが国最初の婦人新聞記者。雑誌「家庭之友」を創刊。「婦人之友」と改題し、友の会を結成、生活合理化運動を展開する。また教育者として自由学園を創立した。

<生没>

1873(明治6)年9月8日～1957(昭和 32)年4月7日

<代表作>

「羽仁もと子著作集」全 21 巻

<青森との関わり>

八戸市長横町に生まれ、16 歳までを過ごす。一時八戸小学校の教師を勤めた。

2、作家解説

明治6年9月8日、八戸市長横町松岡登太郎、美和の長女として生まれる。八戸小学校高等科を卒業、勉学の志強く、祖父とともに上京し、新設の東京府立第一高等女学校2年に入学する。明治 22 年、もと子 16 歳の時である。翌年築地明石町教会で洗礼を受ける。

第一高女卒業後、明治女学校高等科に入学。巖本善治と出会い、「女学雑誌」の校正をしながら学ぶ場を与えられる。26 年1月から8月まで郷里にもどり、八戸小学校と盛岡女学校の教師を経て再び上京する。明治 30 年、自ら報知新聞社の校正係に応募、採用される。明治 32 年、谷干城夫人の素顔を取材した連載記事が高く評価され、正式な記者として採用された。わが国最初の婦人記者の誕生である。

明治 34 年、報知新聞の記者、羽仁吉一と結婚。長女説子が生まれた 36 年4月には雑誌「家庭之友」を創刊する。のち「婦人之友」と改題し、実生活の中から

身近な問題を取り上げて生活の改善をめざす雑誌として、多くの読者を獲得していく。また「家計簿」や「主婦日記」を創案、「子供之友」「新少女」など次々に家庭改良をめざした出版を続けていく。

大正 10 年 4 月にはキリスト教的自由主義に基づく「自由学園」を創設。生徒の人格を尊重し、真の自由を確立するという理念のもと、26 名の生徒が集まった。

昭和 5 年「婦人之友」愛読者による「友の会」第 1 回大会を東京で、以後家庭生活合理化展覧会を全国 28 都市で開催。世界新教育会議参加、東北農村合理化運動、北京生活学校開校はじめ数多くの活動を意欲的に展開していく。国内にとどまらず、世界中に愛と自由、協力の精神をもって新家庭、新社会を建設していくという思想は確実に実践され、受け継がれている。

「思想しつつ、生活しつつ、祈りつつ」昭和 32 年 4 月 7 日、羽仁もと子は 83 歳の生涯を終えた。

3、資料紹介

○「羽仁もと子著作集」全 21 巻

図書

1927(昭和 2)年～1983(昭和 58)年

180 mm × 125 mm

「婦人之友」創刊以来執筆した作品を著作集として刊行。第 1 巻「人間篇」から「自由、協力、愛」までの 20 巻。さらに創刊 80 周年記念として第 21 巻「真理のかがやき」を出版。羽仁恵子による評伝と年譜。装幀は平福百穂。羽仁もと子の全思想と生活の記録を知ることができる。